令和5年度国際かんがい排水委員会等活動支援調査委託事業　概要

1.　業務の目的

本事業では、我が国と類似した気象条件や農業体系を持つアジアモンスーン地域の国・地域と連携しつつ、かんがい排水に関する世界最大の国際的ネットワークを有する国際かんがい排水委員会（ICID）での活動や、水田農業を実施する 17 の国々及び８つの国際機関から構成されるネットワークである国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）での活動を通じて、我が国の特性を考慮した水の利用効率改善の在り方を国際社会に発信し、理解の醸成を図るとともに、諸外国の水利用効率の考え方や技術を必要に応じて日本国内に情報提供することを目的とする。

2.　業務の概要

(1)　ICID 活動のための支援

1)　ICID 国際執行理事会（IEC）及び総会に関する活動支援

インド国ヴィシャーカパトナムにおいて、令和５年 11 月１日（水）～11 月８日（水）に開催された ICID 第 25 回総会及び第 74 回国際執行理事会に参加し、日本のカントリーペーパー及び国際ワークショップにおけるプレゼン資料（案）の作成、会議概要の取りまとめ、配布資料及び発表資料の収集、ICID 日本国内委員が IEC 等に参加するための各種手配等の作業を行った。

結果概要

- 会長（任期３年）の改選が行われ、Dr. Marco Arcieri（イタリア)が選出された。
- 副会長９名（任期３年）のうち３名の改選については３名が立候補し、Dr. Tian Fuqiang（中国)、Dr. Vadim Sokolov（ウズベキスタン)、Dr. Watchara Suiadee（タイ）の順に順位が決定された。
- 世界かんがい施設遺産について、日本から申請された山形五堰（山形県山形市)、本宿用水（静岡県長泉町)、北山用水（静岡県富士宮市)、建部井堰（岡山県岡山市）が認定され、地元関係者等に登録証が授与された。
- 最優秀論文賞に、「水田の高水温障害アラートシステムの開発」に関する論文（木村委員他日本人研究者３名、中国人研究者１名の共著）が選定された。
- 総会における国際シンポジウム・ワークショップ、サイドイベントにおいて日本国内委員会から９つのプレゼンテーションが行われた。

・ 作業部会の再編（Restructuring）について、2023 年にマンデートが終了する 7 つの作業部会を、今後も継続する 11 の作業部会に統廃合する案が承認された。今回の提案は本 IEC 会合で 7 作業部会が終了することに対応した暫定案であり、今後、存続する作業部会においてマンデート、名前の変更等について検討が進められる予定である。
・ また、ICID の財政面における長期展望に関し、ICID 本部ビルの再開発の状況等が報告された。

2) ICID 日本国内委員会会合活動支援

令和5年10月13日及び12月21日に開催されたICID 日本国内委員会会合（以下「ICID 国内会合」という。）に参加し、資料の取りまとめ、会場設営、会議の司会、進行及び議事録の作成、国内委員が会合に参加するための各種手配等の作業を行った。

第2回委員会（令和5年10月13日）の結果概要

・事務局より副委員長の設置が提案され、奥田委員が就任した。
・インドで開催予定の第25回ICID総会・第74回国際執行理事会（IEC）の対処方針案について、食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会での審議に先立ち、事務局から説明が行われ、委員会として了承した。
・第74回IECにおける各作業部会等の対処方針案が担当委員より説明され、了承された。

第3回委員会（令和5年12月21日）の結果概要

・ インドで開催された第 25 回 ICID 総会・第 74 回国際執行理事会（IEC）の結果について事務局及び各委員から報告された。また、食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会への報告案について、技術的な修正は事務局、委員長に一任され、委員会として了承された。
・ ICID における作業部会の再編について、現状報告と意見交換が行われた。
・ 世界かんがい施設遺産の今後の予定、第 10 回世界水フォーラムの準備状況について事務局から情報提供された。

3) ICID日本国内委員会世界かんがい施設遺産分科会会合活動支援

令和6年3月12日に開催されたICID日本国内委員会世界かんがい施設遺産分科会会合（以下「ICID 分科会会合」という）に参加し、会議の司会、進行及び議事録の作成、国内委員が会合に参加するための各種手配等を行った。

結果概要

・ 令和 6 年度の申請案件として、①南原穴堰（宮城県大崎市）、②龍ケ池揚水機場（滋賀県犬上郡豊郷町）、③西光寺野疎水路（兵庫県姫路市他）の 3 地区を ICID 本部に申請することについて、分科会として承認した。

(2)　INWEPF 活動のための支援

1)　第18回INWEPF運営会議及びシンポジウムに関する活動支援

令和５年８月 28 日～29 日にエジプトにて開催された第 18 回 INWEPF 運営会議及びシンポジウム（以下「運営会議等」という。）に INWEPF 日本事務局（農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室）とともに参加し、運営会議等における発表資料の作成支援及び取りまとめ、出張行程の作成、第３ワーキンググループ会議の運営支援、第１及び第２ワーキングクループへの参加、運営会議等の結果概要の取りまとめ、国内関係者が参加するための各種手配等を行った。

結果概要

各ワーキンググループ（WG）では、それぞれのマンデートを踏まえたテーマについて議論が行われた。

	リード国	テーマ	プレゼン発表国
WG1	マレーシア欠席のためエジプト	多面的機能とフードバリューチェーン	スリランカ、タイ、日本、インド（口頭発表）
WG2	韓国	かんがいシステムと気候変動	タイ、スリランカ、日本、韓国
WG3	日本 (議長：松野教授)	水田農業における水利用効率	スリランカ、タイ、MRC、日本（3）

運営委員会では、日本から第６次Strategy Plan及び行動計画案が提案され、今後、各国からのコメントを踏まえて最終決定することとされた。また、2024年の運営委員会・シンポジウムについては、11月にタイにて開催することとなった。

29日（火）には、カイロ北部、ナイルデルタにあるAgricultural Research Center（ARC）の試験場であるRice Research and Training Centerを訪問し、エジプトにおけるコメの品種改良（主にジャポニカ種と、ジャポニカ種・インディカ種の交配種）の実施状況や水田水管理等に関する研究の実施状況を視察した。

2)　INWEPF タスクフォース会議活動支援

令和5年7月7日及び令和6年3月11日にオンラインにて開催されたINWEPF タスクフォース会議（以下「TF 会議」という。）について、TF 会議の開催、参加国との調整、会場の運営支援、結果概要の取りまとめ等の作業を行った。

3)　INWEPF 関連会議活動支援

1 月 31 日から 2 月 2 日において、中国を参加国として開催した INWEPF 関連会議及び現地視察について、会議及び現地調査の運営支援、参加者との日程調整、会議資料翻訳・取りまとめ、通訳の手配等の作業を行った。

日月	行　　程	備　　考
1/30（火）	中国代表団来日	都内泊
1/31（水）	農林水産省表敬 技術交流セミナー	都内泊
2/1（木）	羽田空港→福岡空港 山田堰等視察	久留米泊
2/2（金）	筑後大堰、城島町土地改良区FOEASほ場等視察	福岡泊
2/3（土）	中国代表団帰国	

4)　水田農業における水利用効率の評価手法に関する検討会の運営等

水田農業における水利用効率の評価手法に関する検討会（以下「検討会」という。）は、SDGs6.4.1における「水利用効率のモニタリング指標」に関し、INWEPF を始めとした国際会議等の場において発信することを念頭に、アジアモンスーン地域の水田かんがいを有する多面的機能の価値等に着目し、評価手法等を検討する会合である。

令和5年7月28日及び令和6年3月14日に開催された検討会において、会議の運営支援、有識者が検討会に参加するための各種手配等の作業を行った。

また、検討会に参加する有識者が、運営会議等の国際会議において研究成果の発表に必要な根拠の蓄積を行うため、FAO 等の国際機関及び国内研究機関の関連データ、資料を収集、整理し、取りまとめを行った。